

あなたの前に道はない、
あなたの後ろに道はできる。

西野 佳以 NISHINO Yoshii

京都産業大学 総合生命科学部 准教授
専門分野：ウイルス学

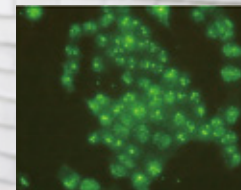
略歴

平成2年北海道大学獣医学部卒業。平成6年北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了(この間、2年間日本学術振興会特別研究員)。理化学研究所奨励研究員・基礎科学特別研究員を経て、平成8年より麻布大学獣医学部助手(後に講師)。この間、米国食品医薬品局で2年間客員研究員。平成22年より京都産業大学総合生命科学部准教授。現在に至る。獣医師、博士(理学)。

研究紹介

ボルナ病ウイルス(BDV)は動物の体内に侵入し、神経細胞に入り込んで複製を始め、最終的に脳で増殖して神経症状を引き起こします。BDVのように神経に入り込むウイルスは他にもあります。たとえば水ぼうそう(帯状疱疹)を引き起こすウイルスや、口唇ヘルペスを引き起こすウイルスなどがそうです。これらの神経ウイルスの大きな特徴は、持続感染するという点です。つまり、感染した動物が生きている間、ウイルスは排除されことなく生き残るというやっかいな特徴があるのですが、こういったウイルスは感染を防ぐことができなくても発症を予防すればよいので、現在、発症に関わるリスクファクターについて検討しています。これらの神経ウイルスが長く体内で生き残れる理由として、感染した神経細胞をすぐに殺さない性質であることと、神経細胞は体内の他の細胞に比べて寿命が長いこと、細胞内のウイルスも長く存在できることが挙げられます。

ボルナ病ウイルス(BDV)が持続感染しているMDCK(犬腎株化)細胞。BDV蛋白質は核内でドット状に認められる。



My Hobby 読書、映画鑑賞

BEST SHOT 頭をスッキリさせる アロマの香り



研究テーマ

私は、ウイルスが感染するとなぜ病気になるのかということに興味があり、ウイルス感染による神経・精神疾患の研究をしています。研究対象は、ボルナ病ウイルスという動物と人の中枢神経系に持続的に感染するウイルスです。ボルナ病ウイルスに感染すると、運動障害、行動学的異常、あるいは感覚異常などの症状が現れますが、感染しても症状が現れない動物も多いです。私の研究室では、この病気が発症するには、ウイルス感染に加え何かリスクとなる要因が加わる必要があると考えています。①ウイルス感染細胞が産生する物質と、②ストレスなどの環境的な要因によって産生されるホルモンをそのリスク要因と考えて研究をしています。私達の研究によって、ボル

ナ病ウイルスだけでなく、持続的に感染する他のウイルスの発病の仕組みにも関係するような普遍的な仕組みを明らかにできれば嬉しいです。

研究の道へ進んだきっかけ

大学6年生の時に、就職活動のために訪問した会社におられた大学の先輩と話をし、自分のやりたいことは大学などで行われている基礎的な研究だと気が付きました。ちょうどその頃、ウイルス学の有名な専門誌に論文が掲載された先生を紹介され、獣医学部の外の世界を知りたいという好奇心とその教授のもとで研究をしてみたいと思ったことが研究の道に入るきっかけになりました。

研究者になってよかったと思うことは何ですか。
自分にとって興味があることが職業として認められる点。

座右の銘

あなたの前に道はない、あなたの後ろに道はできる。

研究とプライベートの両立で工夫していること

子供や夫との約束はできるだけ守ること、土・日・祝日と夜間はできるだけ仕事を入れずに子供達と過ごして、家族への平日の埋め合わせと、自分自身のリフレッシュをしています。でも、なかなか実行できていません。研究とプライベートの両立は、本当に難しいです。

未来の研究者へ一言
やりたいことを見つけたら、あきらめずに続けること。すぐには達成できなくても、頑張るあなたを見ている人は必ずいるもので、きっと応援してくれるでしょう。それから、あなたのことを尊重してくれるよいパートナーを見つけることも大事です。

